

先行事例調査シート

1. 塩尻市立図書館

基本情報	
施設名	塩尻市立図書館本館（えんぱーく内） 平成 30 年 5 月 29 日現在  
住所	〒399-0736 長野県塩尻市大門一番町 12 番 2 号 塩尻市市民交流センター内
交通 アクセス	電車：JR 塩尻駅下車。東口（正面口）から徒歩約 8 分。 自動車：長野自動車道 塩尻 IC から約 10 分。
URL	https://www.library-shiojiri.jp/
電話番号	0263-53-3365
開館時間	平日：午前 10 時～午後 8 時（児童コーナーは午前 9 時から） 土曜日：午前 9 時 30 分～午後 8 時（児童コーナーは午前 9 時から） 日曜日・祝日：午前 9 時 30 分～午後 6 時（児童コーナーは午前 9 時から）
休館日	水曜日，資料整理日（毎月最終月曜日，ただし 3 月は 31 日） 年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日），蔵書点検期間
運営	塩尻市教育委員会等
人口 （29 年度）	66,979 人
床面積	3,285 m ² （約 12,000 m ² ）
職員体制 （29 年度）	36 人 正規職員 6（4），嘱託職員・臨時職員 30（23） なお，学校図書館の職員は 15（14） カッコ内は司書
図書費予算（30 年度）	34,840 千円（29 年度 27,840 千円 7,000 千円増）

蔵書数 (29年度)	395,249冊
個人貸出冊数 (29年度)	497,308冊
年間入館者数 (29年度)	101,319人
開館日数 (29年度)	289日
設置の経緯	
<p>「塩尻市中心市街地活性化基本計画」が、平成11年3月に中心市街地の賑わいを取り戻すことを目的に策定され、市民公募による「中心市街地の活性化ワーキンググループ」が平成15年4月に立ち上がった。塩尻市立図書館でも、同じく市民参加による「市立図書館のあり方検討会」が15年に開かれ、複合施設の核となる施設として計画された。</p>	
特徴的な施設・設備（ファシリティ）	
<p>●塩尻市市民交流センター（えんぱーく）は、図書館、交流支援課（会議室・ホール・ICTルーム・食育ルーム・音楽練習室など）、子育て支援センター（図書館1階部分に併設）の3つの施設で構成される。テナントとして、商工会議所や民間オフィスも入っている。「壁柱（かべばしら）」と呼ばれる薄い板状の壁は特徴で、建物の三方がガラス張りで、開放的である。えんぱーく内は、飲食や会話が可能なため（図書館では飲食禁止）、10代の若者の学習の場や市民の交流の場となっている。</p> <p>●ICTルーム、イベントホール、音楽練習室、食育室（調理室）、多目的ホールなどがある。「ファブラリーえんぱーく」には、3Dプリンタを配備している。建物の壁面などを有料で貸し出しており、展示等の市民・企業活動（営利目的でも可能）に活用されている。</p>	
特徴的なサービス	
<p>●塩尻市立図書館が中心となり、生涯読書を推進するため、著者、出版社、書店などと連携し「本の寺子屋」を、年間を通して行っている。「子ども本の寺子屋」もある。</p> <p>●地元出版文化を支える活動として、出産や入園・入学などのお祝いに絵本専門士が選んだ絵本を書店で購入し、帯にメッセージを書いて送るプレゼント企画「贈り帯」を、図書館と塩尻市書店組合及び地元印刷会社が提携し行っている。</p> <p>●特徴的なコレクションとして、塩尻市出身で筑摩書房創業者の「古田 晁文庫」と「筑摩コレクション」がある。地域資料として、ワイン、短歌、漆器などの資料を重点的に収集している。</p> <p>●読んだ本のタイトルや感想を自由に書ける、ノート型の「読書手帳」を作成し配布して</p>	

いる。表紙は塩尻市ゆかりのいわさきちひろ氏のイラストが描かれている。図書館の本だけではなく、購入した本や学校図書館で読んだ本などの記録も書くことができる。

●子育て支援については、図書館の児童向け貸出カウンターの横に、子育て支援センターのカウンターがあり、共通の利用者カードを使っている。おはなし会やイベントなどでは連携し、図書館に行くついでに気軽に育児相談などができる。図書館に子育て応援コーナーが設置され、育児に関する本や雑誌、パンフレット類が集められている。

●ビジネス支援については、図書館と経済産業省による「よろず支援拠点」と協力し、敷居を低くした、市民のための仕事相談コーナーを設けている。平成28年から導入し、2件の起業が実現した。塩尻市には、インキュベーションセンターが、別にあり専門的知識が必要な高度な相談に乗っており、棲み分けをしている。また、館内の仕事情報コーナーでは、テーマ別に図書を集めている。館内では8種類のデータベースが利用できる。

●学校図書館への支援では、25年度より全15校（小学校9校、中学校5校、小中併設校1校）へ学校司書を図書館から派遣している。学校司書の人事・予算を教育総務課より図書館に一元化し、職員の交流や情報共有などにより、スキルアップを目指している。各学校へは、読書推進アドバイザー（読み聞かせ16団体）と学校担当者が、継続的に学校を訪問しニーズ把握を行っている。24年に、全校にパソコンが導入され、システム化が図られた。「本の寺子屋」でも学校図書館職員向けの講座を開催している。

●地域開放型学校図書館はない。

（塩尻中学校ではコミュニティースクールと連携している。）

その他

【えんぱーく】

●えんぱーくの3つの役割と5つの重点分野

3つの役割：（1）意欲と活動を応援する （2）役立つ情報を提供する （3）えんぱーく自体が進化する

5つの重点分野：（1）図書館 （2）シニア活動 （3）市民活動支援 （4）子育て支援・青少年交流 （5）ビジネス活動支援

これらに基づき、市の直営機関として、各部署（図書館、交流支援課、子育て支援センター）が連携し相乗効果を生み出している。

●企業や個人の新しいモノづくりを支援する場として、材料費のみで使える3Dプリンタが利用できる「ファブラリーえんぱーく」を2階交流センターに設置している。29年度の利用は100件（図書館利用者80件、その他利用者20件）。3Dプリンタに入力するデータは、利用者があらかじめ作成してくる必要がある。ICTルームが隣接する。

●3階の音楽練習室は稼働率90%で10代の若者の利用が多い。図書館内にある10代の若者向けの「若葉コーナー」への誘導も行っている。

【塩尻市立図書館】

- 30年8月で9年目を迎える。初年度から現在に至るまで入館者数は減っていない。進化する図書館を掲げ、新規利用登録者が毎年2千人ほど増えている。
- 2015年「Library of the year 2015」を受賞。また、2017年「地方創生レファレンス大賞」審査会特別賞を受賞。
- ICタグによる自動貸出機を設置している。28年に図書館システムリプレイスを行った。「Ruby 図書館システム」を継続した。

ビジネス支援について



コワーキング機能

自学自習	PC作業	電源	Wi-Fi	ロッカー	飲食
○	○	○	○	○	△（えんぱーく内の図書館以外では○）

ビジネス支援メニュー

法人登記	専用ブース	会議室	ビジネス書	チラシ等設置	託児
×	×	△（有料）	○	○	△（有料）
相談	マッチング	ネットワーキング	セミナー	ファブラボスペース	SNS
△（長野県よろず支援拠点）	△（長野県よろず支援拠点）	△（長野県よろず支援拠点）	△（長野県よろず支援拠点）	○	Facebook LINE@（学生ボランティア）
Webサイト	データベース				
○	○（8種類）				

ビジネス支援を担う，図書館以外の組織・団体

長野県よろず支援拠点

<https://www.yorozu-nagano.jp/>

- 経済産業省関東経済産業局委託事業
- 平成 26 年度から，各都道府県に 1 ヶ所ずつ，地域の商工会議所・商工会，金融機関，大学等の支援機関と連携しながら，小規模 事業者・中小企業が抱える様々な経営相談に対応するため，国からの委託を受けて設置された公的相談窓口

その他

- ビジネス情報相談会…長野県よろず支援拠点と共同で，月に 1 回開催している。
- NDC にとらわれない，ジャンル別の配架を行っている。
→絵本の側に子育て支援の本を配架し，ビジネス支援コーナーでは独自のジャンル分けをしている。
- しおり部…学生ボランティアによる図書館広報隊。基本的に学生主導で行うこととしている。
- 日々のカウンターでの会話の積み重ねにより，司書が利用者から信頼されている。

子育て支援について

機能

子育て相談 (関連情報の提供)	プレイルーム	託児	授乳・おむつ 交換	テーマの 棚	読書手帳・ 通帳
△(子育て支援センターが担当)	△(子育て支援センター内)	△(必要な時は別途手配)	△(子育て支援センター内)	○	○(読書手帳)

内容

●図書館の児童貸出カウンター横に，子育て支援センターのカウンターがあり，図書館の利用者カードを共通カードとして使っている。プレイルームも図書館児童コーナーに隣接しているため，おはなし会やイベントなどで連携を取り，図書館に行くついでに気軽に育児相談などができる体制をとっている。



●図書館の子育て応援コーナーでは，NDC にとらわれない配架をしている。育児に関する図書や雑誌，パンフレット類が集められている。

- 読んだ本のタイトルや感想を自由に書けるノート型の「読書手帳」を作成し配布している。表紙には塩尻市ゆかりのいわさきちひろ氏のイラストが描かれている。図書館での本だけではなく、自分で購入した本や学校図書館で読んだ本などの記録もできる。
- 本のことや図書館司書の仕事について体験などから学ぶ「図書館マスター認定講座」や、塩尻市立図書館が中心となり、著者、出版社、書店などと連携した「子ども本の寺子屋」を実施している。

学校支援について

機能

学校司書配置	学校司書の所属	アドバイザーの配置	公共図書館所蔵本の取寄	研修体制	システムの統合
○	塩尻市立図書館	○（ボランティア団体）	○	○	○

内容

- 学校司書の人事・予算を教育総務課より図書館に一元化し、25年度より全15校（小学校9校，中学校5校，小中併設校1校）へ学校司書を派遣している。
- 読書推進アドバイザー（読み聞かせ16団体）と学校担当者が各学校を継続的に訪問し、学校長、担当の教員とコミュニケーションを図りニーズ把握を行っている。
- 24年度に、全校にパソコンが導入され、システム化が図られた。
- 学校長・教頭、学校司書、教育総務課、教育センター、市立図書館職員を委員とする「学校図書館委員会」も教育委員会から事務局を市立図書館に移管した。また、実務的課題の検討や自主研修を行っている「司書部会」には市立図書館の職員も参加するなど、連携が深まっている。
- 「本の寺子屋」で学校図書館職員向けの講座を開催している。塩尻市以外からの参加者もあり、関係者の交流が図られている。
- 図書館では読書推進活動として歴史ある「PTA親子文庫」の蔵書を管理しており、市内小学校で学級文庫として活用を始めた。

2. 安城市図書情報館

基本情報	
施設名	<p>安城市図書情報館（アンフォーレ内） 平成 30 年 5 月 30 日現在</p>  
住所	〒446-0032 愛知県安城市御幸本町 12 番 1 号
交通 アクセス	電車：JR 東海道本線安城駅南口から徒歩 5 分
URL	http://www.library.city.anjo.aichi.jp/
電話番号	0566-76-6111
開館時間	平日：午前 9 時～午後 8 時 土曜日・日曜日・祝日：午前 9 時～午後 6 時
休館日	毎週火曜日（祝日を除く），毎月第 4 金曜日，年末年始，特別図書整理期間
運営	安城市アンフォーレ課
人口 (29 年度)	188,693 人
床面積	約 6,808 m ² （約 9,193 m ² ）
職員体制 (29 年度)	81 人 正規職員 17 (7)，再任用職員 2，臨時職員 62 (33) カッコ内は司書
図書費予算 (29 年度)	90,000 千円（視聴覚資料費含む）

蔵書収容能力	450,000 冊（28 年度の旧中央図書館蔵書冊数 508,478 冊）
個人貸出冊数	784,974 冊（28 年度の旧中央図書館）
入館者（29 年 6 月からの 1 年間）	約 880,000 人 （1 日平均約 3,000 人）
設置の経緯	
<p>1 日当たり 3,000 人ほどが集まる総合病院が、平成 14 年に郊外に移転し、中心市街地に人が来なくなった。そのため、JR 安城駅を中心とする地域の活性化を目的とし、公共施設の整備等を行う PFI 事業と民間施設の整備等を行う定期借地事業を一体的に実施し、官民による複合施設を整備することとなった。中核施設として図書館が入り、平成 29 年 6 月に開館した。</p>	
特徴的な施設・設備（ファシリティ）	
<p>図書情報館、ホール、願いごとひろば、公園、商業施設などからなる複合施設であり、「学び・健やか・交わりの場」として多様な交流と活動を促進し、中心市街地の賑わいの創出・活性化を目指している。</p> <p>1 階エントランスにはカフェが入り、4 階までの吹き抜けがある開放的な造りで、一部を展示会・作品展などの会場として利用できる貸出スペースとなっている。施設の指定管理者や市民グループが行うイベント等が集客装置となり、結果的に図書館利用につながるよい環境をつくっている。特に、子育て世代や中高生の来館者数が増加した。サードプレイスとして利用されている。アンフォーレ全体で、デジタルサイネージを活用した広報を行っている。また、講座等のイベントは積極的に開催している。</p>	
特徴的なサービス	
<p>4 つの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書館フロアでの会話と飲食を原則可能としている。現在、トラブルはほとんどない。 ●NDC にとられないジャンル別の配架をしている。 <p>2 階は「子どもフロア」とし、子どもの読書支援、大人の子育てに関する本、それらの研究本などを、また、ティーンズコーナーを発展させ、図書館初心者でも使いやすい入門書、歴代ベストセラー、マンガなどを「ら Books」として、2 万冊弱整備している。</p> <p>3 階は「暮らしのフロア」とし、全般的にジャンル別の配架をしている。「健康支援室・講座室」、「ビジネス支援センター」、「グループ学習室」、「ディスカッションルーム」、「編集・録音スタジオ」などの施設がある。</p>	

4階は「学問と芸術のフロア」とし、文学・芸術など従来のNDCによる配架をしている。公開書庫がある。

●ICT環境が整備され、自動貸出返却機、予約棚、予約本受取機（24時間可能）、電子図書館、読書通帳、図書消毒機、施設・座席予約システム（グループ学習室、ディスカッションルーム、編集・録音スタジオ、個人学習席）、ICタグから置いた本の情報を把握できる書架（当日返却本と新着本）がある。

また、電子図書、電子新聞（50インチモニター2台）、デジタル絵本、デジタルアーカイブ、データベース、読書通帳を導入している。図書消毒機の設置も行われている。

ノート型PC、タブレット、CD・DVDプレイヤーなどの貸出も行われている。館内Wi-Fiが整備されている（利用にパスワードが必要）。

PC専用席は設けずに、館内のどこでも利用可としている。

●学校図書館への支援

学校教育課と連携し、学校司書を全校（小学校21校、中学校8校）に配置している。学校司書は教育委員会に所属する。教育委員会の学校図書館支援担当者（元校長先生）が巡回し、相談に乗りながら毎月1回研修を含めて定例会を実施している。図書情報館のオープンに合わせて、学校と公共図書館のシステムを一元化し、週2回の定期配送便により、学校から直接公共図書館の本取り寄せることができ、読書活動の推進を図っている。各学校資料費は50万円前後である。PTA会費（私費）での資料購入はない。

また、現在地域開放型学校図書館はなし。

その他

●JR安城駅を中心とする地域の活性化を目的とし、図書館運営は従来の市直営を維持しつつ公共施設の整備等を行うPFI事業と、民間施設の整備等を行う定期借地事業を一体的に実施し、官民による複合施設を整備した。平成29年6月に開館し、30年3月30日に入館者が100万人を突破した。安城図書情報館の29年6月からの1年間の入場者数は88万人で一日平均約3,000人となった（旧図書館では1年間で45万人、1日平均約1,300人）。新図書館になり、臨時職員をほぼ倍増させ職員体制を強化した。

なお、1年間のアンフォーレ入場者数118万人、1日平均約3,400人となっている。

●ビジネス支援については、商工課が運営を担当する「ビジネス支援センター」を図書館内に開設している。1年間で200件以上の相談があったとのことであり、「安城ビジネスコンシェルジュ（通称ABC）」の専門的な職員が対応している点大きい。今後、ビジネス関連書籍やオンラインデータベース、図書館司書との連携を図っていくとのことである。

●子育て支援については、地域子育て支援拠点として0～3歳の子どもと、その保護者が過ごす「ほっとスペース」を、子育て支援課が担当し、NPO法人にサービスを委託し、図書館内に開設している。サービス内容は、子育てアドバイザーが子育ての悩み相談に応じ

たり，地域の子育て関連情報を提供したり，子育て及び子育て支援に関する講習を実施するなどしている。

ビジネス支援について



コワーキング機能

自学自習	PC 作業	電源	Wi-Fi	ロッカー	飲食
○	○	○	○	○	○

ビジネス支援メニュー

法人登記	専用ブース	会議室	ビジネス書	チラシ等設置	託児
×	○ (予約制)	○ (予約制)	○	○	○
相談	マッチング	ネットワーキング	セミナー	ファブラボスペース	SNS
△ (ABC)	△ (ABC)	△ (ABC)	△ (ABC)	○	図書館… Twitter ABC… Facebook, Instagram
Web サイト	データベース				
○	○ (15 種)				

ビジネス支援を担う，図書館以外の組織・団体

安城ビジネスコンシェルジュ (ABC)

<https://abc-anjo.jp/>

- 商工課の職員が3名で対応している。
- 1年で200件以上の相談があった。
- 商工会議所のサテライトとして個人事業者や会社の経営相談などに乗っている。図書館では講座開催日に，本の紹介や図書館カードを作ってもらおうよう働きかけている。

- 図書館の資料やレファレンスサービスも活用したビジネス支援を目指す。
- 15種類のビジネスで使えるデータベースを導入している

その他

- NDCにとらわれないジャンル別の配架を積極的に行っている。
- 安城ビジネスコンシェルジュ（ABC）ともっと連携して、スモールビジネス（小規模のビジネス）に主眼を置いたビジネス支援にしていきたいと思っている。

子育て支援について

機能

子育て相談 (関連情報の 提供)	プレイルーム	託児	授乳・おむつ 交換	テーマの 棚	読書手帳・通 帳
△(子育て支 援課が担当)	△(子育て支援 課が担当)	△(子育て支 援課が担当)	○	○	○(読書手 帳)

内容

●2階が「子どもフロア」では、0～3歳の子どもとその保護者が過ごす安城市地域子育て支援拠点「ほっとスペース」（子育て支援課）を、NPO法人にサービスを委託し図書館内に開設している。プレイルームで遊べるほか、子育てアドバイザーが子育ての悩み相談に応じたり、地域の子育て関連情報を提供したり、子育て及び子育て支援に関する講習を実施するなどしている。



●安城市ゆかりの童話作家・新美南吉氏の作品をモチーフとした部屋「でんでんむしのへや」で、ボランティアがお話会やストーリーテリングを開催している。

●図書館では、子どもの読書支援、大人の子育てに関する本、それらの研究本などを、NDCにとらわれないテーマ別での配架を行っている。また、ティーンズコーナーを発展させ、図書館初心者でも使いやすい入門書、歴代ベストセラー、マンガなどを「らBooks」として、2万冊弱を配架している。その他、デジタル絵本や読書通帳を導入し読書推進を図っている。

●平成32年より必修化される小学校でのプログラミング教育に対応するために、2階のグループ学習室では、子ども向けに定期的に「ロボットプログラミング講座」を実施している。

学校支援について

機能

学校司書配置	学校司書の所属	アドバイザーの配置	公共図書館本の取寄	研修体制	システムの統合
○	教育委員会	○（元学校長）	○	○	○

内容

- 25年度より全29校（小学校21校，中学校8校）に8人の学校司書を配置した。その後，段階的に増員し，30年度から，全校で1日4時間，週5日勤務している。
- 学校司書は教育委員会に所属し，毎月1回研修を含め定例会を実施している。
- 29年6月オープンに合わせて，学校と公共図書館のシステムを一元化し，公共図書館の本を学校に貸し出す定期配送サービスを開始した。朝読の本に加え，各校のリクエストに基づく調べ学習用の本や生徒や教師が予約した本を週2回ずつ届けることができる。これにより28年度と同じ時期と比べて貸出が約2.4倍に増加した。
- 各学校の資料費は50万円前後であるが，別枠で年間200万円を確保し，調べ学習及び総合学習に対応するための図書資料の充実を図っている。また，それとも別枠で年間300万円を確保し，子どもの読書活動の推進に対応するための，児童書・絵本などの図書資料の充実を図り，小中学校等の団体貸出に対応できる体制を整えている。事前連絡で希望するテーマ図書を指定日までに図書館が用意するなどしている。PTA会費（私費）での資料購入はない。
- 4つの特徴
 - (1) シルバー人材センターが軽のバンを使い，週2回配送する。司書が朝読用に1学年につき60冊を選書する。それを3週間ごとに回す。
 - (2) 調べ学習についてテーマに沿った本を配送する。30セットほどある。授業用と先生個人の支援用がある。3万冊を団体貸出用に準備している。
 - (3) ピンポイントでの配送については，学校になく公共図書館にある本の貸出を行っている（ライトノベルなども貸し出す）。
 - (4) 学校司書をすべての学校に30年度より週5日配属している。平成29年度より学校教育課の学校図書館アドバイザー（元学校長）が，学校を訪問し，相談に乗ったり，研修をしたりしている。